

ナース★アクション全国集会(看護代表者会議)の報告

■2026年1月27日(火) 12時～12時30分 TOC 有明ウエストタワー20階

■45県連から250人の看護幹部が参加

■概要 解散総選挙で国会行動が中止となり、急遽切り替えて開催した。看護を巡る「確保養成」「医療現場」「制度基盤」が同時に逼迫するなか、各地の実践から、危機の実態とそれを打開しようとする具体的な取り組みが報告・共有された。

- ・開会挨拶 川上副会長
- ・日本共産党・吉良よし子参議院議員から連帯のビデオメッセージ
- ・看護職養成校をめぐる動き 山田かおる副学校長
- ・取り組み報告 山形、岐阜
- ・事務局から
- ・閉会挨拶 坂田副会長

〈開会挨拶〉全日本民医連副会長 川上和美 さん

総選挙情勢の中、本当の意味でナースアクションを起こすのは“今”。これまでの運動の積み重ねは、「声を上げ、行動すれば社会は変わる」という確信が共有され、現場の力への信頼が示された。命と暮らし、ケアを最優先にする社会の実現に向け、ここに集った一人ひとりの行動が力になる。代表者会議での二日間の学びを各地の具体的行動へつなげて行こう。

1. 吉良よし子参議院議員から連帯のビデオメッセージ

2. 看護職養成校をめぐる現場の実態と実践

東葛看護専門学校副学校長・山田かおる さん(日本看護学校協議会副会長)

昨秋、全国調査により看護師養成所の約1割が閉校を検討または決定していることが明らかになり、さらに埼玉県内で複数校の閉校が報道された。これらは学校経営の問題にとどまらず、「その地域で働く看護師がいなくなること」「地域の命と暮らしを支える力が失われること」に直結する問題であると強調。

養成校の危機は一部地域の特殊事情ではなく、全国どこでも起こり得る構造的課題であり、「自助努力ではどうにもならない」「これは国の政策の問題である」との認識のもと、日本看護学校協議会や関係団体が連携し、厚生労働省への要請、行政交渉、各地での働きかけを進めてきた。その結果として、29年ぶりとなる看護学校補助金の引き上げが実現し、やはり行動すれば変わるという確信につながる到達点だ。一方で、自動的に補助金が増えるわけではなく、実際に決めるのは都道府県であることから、各県での運動が不可欠である。実際に声を上げた県から変わってきており、その背景には、思想や立場の違いを超えて「養成所を守ることは看護の未来を守る」という一点で一致したことがあるとされ、「要求で一致すれば連携できる」という経験が語られた。

さらに、子育てをしながら学ぶ学生の卒業論文が紹介され、「資格を取るための学校が、人のために学びたいと思える場所になった」「社会や政治にも目を向けるようになった」という一節が紹介され、看護職養成校は「看護の価値観と社会を見る視点を育てる場」であり、その場を守ることの意義が改めて語られた。

3. 地域からの実践報告

（１）山形民医連・医療生協やまがた看護部長 本間 優子 さん

県連事務局担当者と相談し「何かできることはないか」と検討する中で、全日本民医連のひな形資料を活用して県への照会文書提出を行った取り組みが報告された。文章作成の負担は大きくなく、「宛先を変えるだけで出せる」。提出後、県から早期に前向きな回答が寄せられたことは参加者にとっても意外であり、「出せば返ってくる」という手応えを感じている。さらに同じひな形を利用して知事宛要望書も提出した。「すごい運動をしなくても、まず動くこと」「小さな行動でも意味があること」が強調され、どの県連でも実践可能な取り組みとして共有された。

（２）岐阜民医連・岐阜勤労者医療協会 みどり病院看護部長 宇野麻子 さん

県内病院を対象とした看護師確保状況アンケートに取り組んだところ、県内４割に当たる多くの医療機関から回答が寄せられ、「地域医療を守る署名」も同時にたくさん寄せられたことに驚いた。結果をもとに県健康福祉課と懇談を実施。500床の病院看護部長も参加してくれた。現場から、「人員不足の中で病床稼働を維持する現場の慢性的疲弊」「初任給は一定でも昇給が伸びず隣県へ流出する実態」「三年も働けばへとへとで辞めていく」など、切実な声を直接伝えた。また、就学資金制度の対象拡大を要望し、大学も対象とする方向で検討するとの回答を得たことが報告された。「自分の病院だけが大変だと思っていたが、共通の課題だった」との気づきが共有され、調査に基づく提起と集団での働きかけが行政との政策対話につながることを確認された。さらに、「看護の問題は看護師だけの問題ではない」「事務職や他職種と一緒に取り組んだことが力になった」と述べられ、県連組織全体で取り組む重要性が示された。

4. 資料共有

事務局より、本日の交渉に提出した省庁への要請書、職業紹介事業者規制に関する要望書、看護学校志願者数の減少データ、二次医療圏に養成校が一枚のみの地域が多数存在する実態などが提示された。看護専門学校だけでなく看護大学も含め志願者減少傾向が続いていること、養成基盤そのものが揺らいでいる現状が強調された。

〈閉会挨拶〉全日本民医連副会長 坂田薫 さん

代表者会議や日々の業務の中で感じる「閉塞感」と「じんわりと灯る怒り」を社会を動かす力へと転換していくこと。この間継続して来た「小さな穴をコツコツこじ開けて大きな運動にする」実践の積み重ねが未来を切り開く。「このままでは看護の未来はない」という強い危機感のもと、各地でナースアクションを広げていく事が呼びかけられた。

※本集会終了後、看護理事・看護学校副校長らが厚労省交渉・国会議員懇談を行った。

〔資料〕ナースアクションニュース・国への要請書

★きらり看護に衆院選のページ開設中 <https://kirarikango.com/nurse-action/>

